

く、同様のことを述べている。(T. F. (N. K.), p. 65, l. 12. Briggs は、あいかわらず、こうした個處は省略してしまつてゐる)。よなみた、Badāni の Muntakhab al-Tawārikh での Mutizz al-Din が Itutmish に名譽を與えたと同じ「その日に」(Tamānuz) 彼に解放證書 (khar-i-azādi) が書かれた」と記してゐる (M. T. (B. I.), p. 63; M. T. (Ran-king), p. 90)。なほ、Tripathi, p. 25 を参照。これらのことから考へると、Itutmish に對して解放證書を書くように命じられた Qutb al-Din が、すでに Sulān Mutizz al-Din Muhammad から、當時、すでに解放されていたことは、ほゞ確實と考へてよいであろう。解放されない奴隸が、その所有者により、そのまた奴隸を解放しろと命じられるというのは全くおかしいからである。

11 B. I., p. 133; R., p. 501. なお、拙稿「繼承」二七九—二八〇頁参照。

12 さしあたり、拙稿「君主權」二二三頁参照。

(東京大學助教授)

東洋文庫新刊書

滿文老檔研究會譯註

滿文老檔 太祖 (東洋文庫叢刊十二)

B 五版 三冊 序文 英文解題七頁

本文一二二五頁 索引八〇頁 圖版十四葉

第 I・II 冊 各二千四百圓 第 III 冊二千圓

滿文老檔(原本奉天崇謨閣藏、全卷寫眞原板京都大學藏)は、清の太祖太宗二朝に亘る三十年間の滿文の日記であつて、合計百八十卷を數へる龐然たる大冊である。その内容は大小各種の政治から宮廷の秘事に至るまで極めて詳密であり、その滿洲文は若干漢語の影響を受けたものを除き傳來の形式を保存し、滿洲古語の研究資料として他に比類を見ないものである。従つて清初の歴史を探り、滿洲古語を究めるに當り、老檔を除外しては到底その目的を達し得ない。然るに老檔は甚だ難解な滿洲古語で書かれた記録であるため、これを利用することが容易でなかつた。故藤岡勝二博士の勞作もあるが、未定稿であるため、新たに滿文老檔研究會がその譯註を進め、本年三月その太祖の卷を終了したものである。なほその第 I・II 冊に對して、昭和三十一年度日本學士院賞が授與されてゐる。

説林

ウイグル文天地八陽神呪

經斷片

龍谷大學所藏大谷探險隊將來文書。

附、西北科學考查團將來文書——

山田信夫

一、前 言

故羽田亨博士が、一九二三年に予報し一五年にまとめて發表されたウイグル文の天地八陽神呪經 (*tngri burqan yriqamıs yirli tngri-li sákitz yúkmák yarur búkiúik arviš nom bitig*) の研究は、當時、劃期的な業績であり、今日なお、その成果は不滅のものとして傳えられている。そのテキストは、大谷探險隊の一員として活躍した、橋瑞超師がトゥルフアン近傍の雅爾湖の地で發見將來されたもの（以

下、假に甲本とよぶ）で、卷首の一部を缺くが、卷末まで全部で四〇五行を數える現存ウイグル文寫本中屈指の長卷である。さらに羽田博士は、同じ大谷探險隊關係のものとして、堀賢雄師がクチャで入手した六〇余行になる斷片（以下、乙本とよぶ）、入手狀況不明の二二行の斷片（以下、丙本とよぶ）の兩者のあることも紹介されたが、特に、丙本は卷首部分にあたり、同じく卷首部分にあたる舊ロシア學士院藏の一五行の斷片と共に、甲本を補うものとして發表され、このウイグル佛教經典のほぼ全貌が明かになったのである。

この新史料が、古テュルク語學と佛教史學とにとり貴重な資料となることはもちろんであるが、同時に、中世ウイグル民族史を考えるばあい、特に、次の二點から注目されるであろう。即ち、第一に、同じ經典の漢文のものが、義淨譯佛說天地八陽神呪經として現在にまで傳えられており、佛說と稱しながらも——ウイグル文でも同じ——中唐の頃作製された偽經とみられること。第二に、そのようなもので一切經にも收められていないものでありながら、ウイグル人間には廣般に流布していたらしいことの二點である。そして特に、この後者の、廣般な流布ということは、既に、羽田博士が指適された通り、この經の諸本が、數多く發見されているということだけからでも推定される。即ち、右の大谷探險隊關係の三

種以外に、博士があげられただけでも、なお五種の斷簡があり、それも、卷子あり冊子あり、寫本あり版本ありで、出土地も、判明する限りではトゥルファン近傍が多いが、既述のようにクチャ出土のものもあるという状況である。この文献を一經典としてみるだけなら、それだけのことであるが、一度湮滅したものが發見されるという、極く限られた範圍で、右のような状況がみられるということは、當然、この經典が用いられた歴史的背景にわれわれの關心を引かずには置かぬであろう。その意味で、この經典の異本がもつと數多く發見され——その可能性は當然考えられる——、それらの書寫あるいは刊行の事情が、諸本の比較研究によつて明かになり、この經の行われた時間的・地域的範圍も確認されるとき、この經典の史料的价值は、佛敎學・言語學だけに留らぬわけであり、また、それをわれわれに期待させるのである。

ウイグル文の天地八陽神呪經なるものに、右のような意味での關心を抱いていた筆者は、中國の西北科學考察團に参加された黃文弼氏の最近の報告書に、この經の新しい一本を見出し、甲本と照合もしてみても注目していた。ところが、更に最近、龍谷大學圖書館所藏の文書類の中に、いま一本を發見することができたのであり、重ねて新資料の出現を嬉しく思つたのである。後述のように、破損箇所が多い斷簡に過ぎぬ

けれど、今まで述べたように、総合的な比較研究が今後に期せられているとき、やはり見逃すことはできぬであろう。本稿は、當面、このわが國で見出された新出のものを紹介し、主として甲本との比較を試み、兩者の相異點を明かにすることだけを意圖した予備的報告である。それは、この新出本の性格を明かにすると同時に、何といつても最も完全に近いテキストに相異なる甲本の性格を明かにすることにもなると思う。それによつて、故羽田博士の業績を一層價值深きものにする事ができるならば、後學の一人として何よりの幸である。

ここで、本資料が、龍谷大學圖書館の所藏であることを明記し、後にふれるように、森川智德學長を會長とする龍谷大學西域文化研究會の諸士の基礎的資料整理が資料發見の契機となつてゐることを特記しておきたい。そして、その研究に参加することを許され、本資料の公開、圖版の掲載についても、同研究會の快諾を得たことを感謝する。さらに、本研究を進めるに當つては、終始、羽田明敎授の御指導を受けたこと、諸般に亙つて、龍谷大學の小笠原宣秀敎授、井ノ口泰淳氏に御手數かけたことも附記して、感謝の意を表したく思う。

註

(1) 羽田 亨「回鶻文の天地八陽神呪經」(藝文四卷二號、大正二年二月)

「回鶻文の天地八陽神呪經」(東洋學報五卷一・二號、大正四年二月)「同補遺」(東洋學報五卷三號、大正四年九月)

(2) 右の「補遺」がそれである。

(3) 羽田、東洋學報五卷一・二號、通卷四一頁。

(4)・(5) 羽田、東洋學報五卷三號、通卷四〇二頁。

(6) 黃文弼「吐魯番考古記」(考古學特刊第三號、中國科學院、一九五四)六四頁、圖版一〇六、一〇七、一〇八。

二、解題、甲本との比較

去る昭和二四年、偶然の機會から西本願寺倉庫内で發見され、龍谷大學に移管された大谷探險隊將來の文書類は、零細な斷簡が多いけれど約六〇〇〇點を數えるという。その大部分は漢文のものだが、ほかにウイグルその他のいわゆる胡語のものもあり、探險終了後、整理され研究されたものも含んでいたが、未整理未公開のものも少くなかつた。現在、龍谷大學西域文化研究會の手によつて着々と整理研究されているわけで、この龍谷大學所藏、大谷探險隊將來のウイグル字のものの中に、この經の斷片もあつたのである。大谷探險隊

關係のものとしてはこれが四本めにあたり、以下、假に丁本とよぶことにする。

現在、これの出土地、入手狀況など明かではなく今後検討されねばならぬが、新しく、一五三九〜一五四四までの番號で整理されている。但し、一番號は、普通の漢籍本のように、一枚の紙を折り合わせて両面に書かれたものを一括して附してあり、現在、その折り目は切れているので二斷片となつてゐる。従つて、一番號が二點、總計一二點の斷片である。

用紙は、ほかの多くのトゥルファン方面出土の文書類と同じく、比較的厚手の茶褐色紙であり、ウイグル字文書としては上質の部に屬す。原寸は四邊が破損しているので不明だが、現存最大長は、ほぼ左右一四・天地二〇cm。破損狀況は、圖版でみられるとおり相當ひどい。周邊については、内容を検討してみたところでは、一面一行ずつは欠け、各行の兩端も、大部分は欠けているが、最も良く残つてゐるものは行末まで残つて居るのに對し、行頭は少くとも五・六字以上の中の欠損があると思われる。

體裁は、甲・乙(？)・丙本三種が卷子であるのとは異り、冊子であることが注目される。前にふれたように、同一番號の二斷片が表裏の一枚となり、六枚だけ現存するわけだが、六枚が重なり合わさつたまま入手されたことは、その破損の

形が全部に共通していることから明かである。そして、一行だけ完全に缺けてしまつてゐる側が綴ぢ目に當る方である。

文字は、やはり書寫されたものだが、書體は、純手書體ではなく活字體に近いことも注目しておく必要があるかもしれぬ。書き方向は、一般に斷定し難いものが少くないが、このばあい、本の體裁、字體などと考え合せて縦書きとみてよいのではなからうか。各片、現存は八行である。原本は九行だつたと思う。

ところで、各紙の接合に當つて、右の整理番號は原文と一致してゐなかつたが、この經名が判つた以上、甲本と對照することによつて、簡單に正しい順列が與えられる。それによ

第一表

丁 本		甲 本
龍大整理番號		行 數 字
1542	I	(208?)~214
"	II	214~219
1544	III	222~227
"	IV	228~234
1540	V	237~242
"	VI	242~247
1541	VII	250~255
"	VIII	255~261
1539	IX	265~271
"	X	271~277
1543	XI	280~284
"	XII	285~290

つて一二片を通じて I~XII の番號を附した。第一表がその對照表であるが、そこに、龍大整理番號で同一番號の二片は、本文が接續しており、異なる番號のあいだでは、甲本の行數で二行前後が缺けてゐることも示されてゐる。

その文章についてみると、その用語が異なるだけでなく、文節にも出入あり、丁本が甲本とは全然別譯のものであることはまちがいない。特に、並行した文章のうち、明かに同一のことを表現するのに、用語の相異なるものをあげてみると第二表のとおりである。

文字については、一般に、ウイグル字では *b* と *x*・*y*・*t* と *p*・*s* と *sh* などの間に相異があつても、混用される傾向のあることは周知の通りだが、甲本との間に、これらの文字の異同は相當多い。しかし、*b* と *x*・*y* のばあい、甲本がそれ自身のなかで大いに混用しているのに比べると、丁本では統一性が強いということが、この一〇〇行足らずの間だけでも、確かな傾向として認められる。たとえば、瀕繁に出てくる *burxan*, *tinliq* などの語でも丁本では統一されているが甲本では *burgan*, *tinliq* と書かれることもあるし、數ヶ所に出てくる *barq* (財)・*qut* (福)・*oq* (讀)・*qawis* (結合ス)・*taqi* (サラニ)・*yog* (ナシ)・*-qa* (一二)などの *q* の字も、丁本では統一されているが、甲本では、*b* の字の傍

第 二 表

丁 本		甲 本	
I ₁)	türmək		?
I ₂)	tutmak トル	209	älp トル
I ₅)	tudasuz qil- 無災(ト) スル	211	tudasuz bul- 無災(ヲ)得ル
III ₅)	birök サテ	226	ymä マタ
III ₆ , V ₇)	nom bitig 經	226, 241	bitig 經
V ₃)	tngri tngrişi burxan 佛	238	tngri burqan 佛
VI ₆)	burxanning nom (rtni) 佛ノ法(寶)	246	burqanning ülüs 佛ノ分
VIII ₄)	oqung 聞ケ	257	şudru tinglang 諦聽セヨ
IX ₈)	irinčü アサマシキ	271	ayiy 悪シキ
X ₂)	ulati ソシテマタ	273	yinä マタ
X ₃)	boluyli tinly-lar 得ル人タチ	273	boluyli 得ル(モノ)
XI ₅)	yoqlayor 高マル	283	aşilur 増ス

點の有無が不同、従つて、**o**とも**u**・**u**とも書かれていて、
 いう状況である。**+**と**o**については、丁本でも甲本と同程

ウイグル文天地八陽神呪經斷片 山田

度に混用されてゐる。**ti**~**di**・**tä**~**dä**・**gut**~**qud**な
 どがみられる。甲本と同じく、**s**の字に二ヶの傍點を附した
 の字も用いられているが無統一であるし、**u**の字も、傍
 點を附さぬのを普通として一部だけ附したのがある。**z**と**z**
 との區別は不明である。

語中の母音字について、甲本の **a** に代つて **ı** が用いら
 れてゐる例として、**asir** (V₂)、**baqir** (VII₁)、**sabir** (XI₁) が
 あり、**tärs**、**qalir**、**yawlaq**、**yaruq** の第一音節
 の **a**・**a**、**tinli** の第二音節の **ı** が、甲本ではすべて明
 記されているのに對し、丁本ではすべて書かれていない。一
 方、**ı** の字が、より丸く又は平な音を示す **ä**・**ö** に變つてい
 るものとして、**bisük** > **bösük** (VII₁, IX₇)、**yinä** > **yänä**
 (II₃, VII₄, X₃)、**isid** > **äsüd** (V₂) がある。母音字の間で認
 められる甲・乙兩本の相異はこれらが全部で、ほかはみな一
 致している。なお、甲本の **bodisw**、**ärdämli** に對し、
 丁本は **bodistw**、**ärdämli** と、いずれも交替することが
 珍しくない二子音字の書き方について、両者が異なる書きくせ
 を示している。

書き方について、甲・丁兩本のあいだには、非常に明瞭な
 相異が一つある。それは、格語尾・造語尾・後置詞などを、
 丁本では分離して書き、甲本では續けて書く傾向が、兩者と

もきわめて著しいことである。第三表は、丁本について、分離して書かれてある語句をあげたものだが、これらは、甲本ではすべて續けて書かれてある。この傾向は、更に、「災禍」の意味の *ada tuda* (II₆)、*adatuda* (217)、「恭敬」の意味の *tapaq saq* (XII₅) と *tapagsaq* (285) のような、類似語の重つた言葉のばあいにも見ることが出来る。

第三表

I ₈)	yultuz-či, kórüm-či
II ₁)	ičgak-kä
II ₄)	öküş-ti
III ₇)	kin-ingä
III ₈)	kün-lär
IV ₁)	öd-lär
VI ₂)	oquš-inkä-tägi
VI ₄)	yrliq-in
VI ₅)	äsi-dip
VI ₆)	äsgü-lügin
VII ₇)	qolu-suz
VII ₈)	bary-lı
VIII ₄)	yirtinčü-tä
VIII ₇)	iki-tin
IX ₂)	yirtinčü-dägi
IX ₂)	törü-süz
IX ₅)	tinly-lar-ıy
X ₂)	yol-qa
X ₄)	tupraq-ča
XI ₅)	kün-igä
XII ₁)	qop-qa
XII ₄)	bodistw-lar
XII ₆)	tükäl-lig

以上、この本の體裁、書寫上、甲本と對照し得る相異點を述べたわけだが、同一經典の寫本とはいへ、兩者の間には形の上で相當の隔りがあることがわかる。しかし、さらに、その内容に入ると、全體としては、甲本の方に、やゝ詳細な敘述がなされてはいるが、語句・文節が相互に入出しているところも少くないので、寫本としての系譜關係を今論ずるわけ

にはゆかぬ。また、甲本について、それは漢文本よりウイグル譯されたと羽田博士は斷定され、確かに、トゥルファン・ウイグル王國の佛教文化の大勢よりみて、甲本のみならず、ほかのウイグル諸本についても、そのことは云えそうであるが、ウイグル諸本と漢文本との關係も、再考の余地が無くもなさそうである。最後に、歴史史料として、その年代は重大な問題であるが、甲本についても確認できなかったわけ、今、丁本についても認定することはできぬ。しかし、相對的な比定だけは、寫本の形式その他より許されるであらうが、それも次の機會に譲る。要するに、これらの諸問題は、なるべく多くの資料に立脚し、綜合的考察を加えて始めて明かになるはずだからである。

最後に、今まで述べたところ、又、次に掲げる本文の解讀・解釋についても、思わぬ誤りも少くないと思う、御叱正を願つて止まぬ次第である。

註

(7) 龍谷大學西域文化研究會編『大谷探險隊將來、西域出土古文書目錄、社會經濟關係其一・其二』(西域文化叢書目錄編第六・第七集、昭和三十一年、三月・七月)

(8) 但し、一五四一と一五三九の間、即ち VIII と IX との間だけは、實質上殆ど四行近い。cf. 譯註(15)

(9) 羽田、東洋學報五卷三號、通卷四〇二頁

(10) Cf. 羽溪了諦「西域佛教文化概論序説」(龍谷大學論集三四七號、昭和二九年四月)一七頁

(11) たとえば、甲本についても、漢文本にない敘述が少からずあるが、それはどのように解すべきか、問題は残されていると思ふ。

(12) 羽田、東洋學報五卷一・二號、通卷四六頁

三、本文(ローマ字轉寫)と譯文

凡例

ローマ字轉寫について

(1) ローマ字轉寫の方式は、A. von Gabain 教授の *Altirische Grammatik*, Leipzig, 1950 に示すところを用いた。羽田博士の方式と異なるのは、博士の *v* を *w* に變えただけである。

(2) *o* と *u*, *ö* と *ü*, *k* と *g*, *p* と *b* それぞれの區別について、主として A. von Gabain 教授の讀み方に據つた。

(3) *t*, *d* は文字通り寫すこと、*q* は *r*・*s* の二ヶの傍點あるものを寫すこと、*z*, *s* は字體の上で明確なもの以外も、從

來の慣用と認められるものは用いること、以上の三點は羽田博士と同様である。

(4) 中間母音の省略されたものも、そのまま寫した。

語釋について

(1) 甲本と並行する文章の同一語句については、なるべく羽田博士の譯語を尊重し従つたが、明かに改良し得ると信じたものは改めた。但し、極端なばあいは註記したが、ほかは斷つていない。

(2) 日本文として理解し易くするために補つた語は、() に收めた。

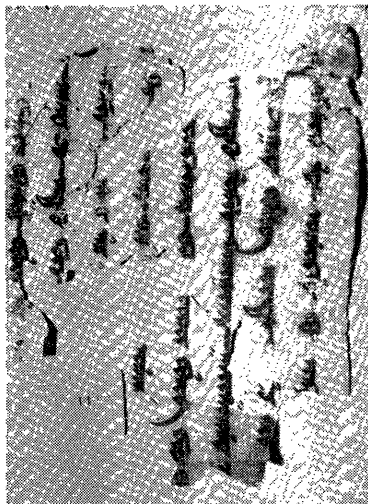
記號について

..... は、破損により不明の箇所

..... は、語中一部分の文字の殘存しているもの

() は、不鮮明な文字、又は缺字でも、前後の語句との關連から確實に推定できるもの、及びその譯語

[] は、甲本と完全に並行している部分のばあい、文意を通ずるに役立つ範圍だけ、参考のために記した甲本の語句、及びそれに對する羽田博士の譯語



龍谷大學圖書館藏 西域文化資料 No. 1541
 ヴィゲル文天地八陽神呪經斷片の VII (左), VIII (右)

- I 1) …… māk tip,, türmāk (tip)……………
 ト云ヒ ? (ト云ヒ)
- 2) ……tip,, tutmaq tip……………
 ト云ヒ トル ト云ヒ
- 3) … (ma)q. tip,, ..(ur)maq t(ip)……………
 ト云ヒ ⁽¹⁾ ト云ヒ ⁽²⁾
- 4) …[bu iki] (ygr)mi uż-i(klär) (biti)g-l(är)……………
 [此ノ十二ノ] 文字 文字
- 5) …… adasuz t(udas)uz qılqu üçün……………
 禍ナク ⁽³⁾災ナク ナス タメ
- 6) …… ur arqan ada tuda k(äl)sär kntü nän ……
 遂ニ ⁽⁴⁾災 禍 來タルトモ 自身 ナンラ(?)
- 7) ……,, adası kældügdä ö(trü) trs tätrü
 ソノ禍 來タルトキ 次イデ 邪 僻ノ
- 8) …… yultuz-či körüm-či tap(a) [barir-lar,, öküš]
 占星者 予言者 ノ方ニ [行キ 種]

II <欄外添書> türlüğ (ämč)ü tigmä al čäwiš [ayu birür-lär,, ötrü
 種ノ(救済者)ト稱セラルル 方便 [ヲ問フ。 茲ニ於テ

- 1) ač yäk] iğgäk kâ sačir töküğ qıl. .[ayu-birür]
 食 鬼] 飲鬼 ニ 供 寄(ヲ)ナス… [ヲ勸告シ]

- 2) . . . ur,, aš iǰǰü aqı barı(m) birt(ürür)
食 飲 貨 財 (ヲ) 寄與 (セシム)
- 3) [ol yäk] iǰǰäk yänä yigädür kâ(ñtünı) üz-ä i(länür)
〔ソノ鬼〕 飲鬼 サラニ 勝チテ 自身ノ 上ニ (支配シ)
- 4) [taqı ymä öküš] (a)da tuda qılu(r) taqı öküš-ti
〔更ニ 又 多クノ〕 危 害(ヲ) ナス ナホ 厚ク
t(apınzun)
(禮拜セヨ)
- 5) [tip] in(čip) tınlr-lar (bilmáz) oqma(z-lar).....
〔ト云フモノナリ〕 カカル 人々 (ハ) (無知) 無悟
- 6) . . . r osur..... tınlr.....
様式 人々
- 7) körkitü birmiş.....
指示 與ヘタリ
- 8) rur,, kün li.....
日

- III 1) . . . ur,, ärtingü trs (tatur) [titir ol tınlıq tüzün]
甚ダ 顛 (倒セルモノ) [ナリ (コノ人ハ) 善]
- 2) (oq)lum kim xayu tınlr [toqsar bu bitigig
(男子ヨ) 如何ナル 人(モ) [出産ノ時 此ノ 經ヲ]
- 3) üç qata] oqız-u(n) ol oq(ul).....
三 度] 讀ムベシ ソノ (男子)
- 4) ..., a(lıq) qa qutadu(r) (titi)g bil(gä) [toqar]
スベテ ニ 幸トナリ 聰明 賢明 [ニ生レ]
- 5) (a)d(asuz) tudasuz bolu(r) ödsüz ölmáz,, bi(rök)
(災ナク) 禍ナク ナル 不時ニ 死ナズ。 サテ
- 6) (t)ınlr ölsär ymä bu no(m) (bi)tigig ü(č) [xata]
(人) 死ナバ マタ コノ 經 (ヲ) 三 [タビ]
- 7) . . . n,, kin-ingä näng a(da) (tu)da bol(ma) q(ai)
ソノ後 如何ナル 災 禍(モ) ナカラシ
- 8) (kü)n-lär alqu ädgü,, ai-lar [taqı ädgü yil yil
(日々) スベテ 良シ。 月々 [亦タ 善ク 年々]
- IV 1) kältä]çi barča ädgü,, öd-lär q(olu-lär) [taqı tüzün]
來ル] モノ スベテ 良シ。 時々 時々 [亦タ 善ク]
- 2) (ärti)ngü yawaš(,) bitig oqıp (i)š isläs(är) [näng
(甚ダ) 良シ (,) 經(ヲ) 讀ミ 勵マバ [何等ノ
adatuda]
危害]

- 3) (bol)qusi yoq., ölüg kâ t⁽⁸⁾(ör)ü toqu q(īlur)
 (ナル)コトナシ。死者ニ儀式(ヲ)(ナス)
- 4) [küntä bu] bitigig üç (qata) oqiz-un ärting(ü)
 [日ニ此ノ]經(ヲ)三たび讀ムベシ 甚ダ
 [qutadur
 [幸ヲ得
- 5) ärüş] ök(üş) (ä)dgü qīlinč [bolur] ol äb barq [kün
 夥]多クノ善行[ヲ得]ソノ家財[日
 küninä
 々ニ
- 6) yoqaru] (a)šīlur., [öz] yaš u(zayur) [ät'öz qodsar
 隆ク(上ニ)]増ス。[生命]生命(延ビ)[身]死スレバ
 alqu burqanlar
 皆諸佛ノ
- 7) yirin] kâ barir., taqī ym(ä) [tüzün oqlum kim qayu
 許]ニ到ル。ナホ マタ [善男子ヨ 各
 tīnlīq
 人
- 8) ölüg kiši] üçün sin orun [itgäli saqinč saqīnsar]
 死人ノ]タメ 廟所 [ヲ營マント 思 念セバ]

- V 1)ymä taplaqay-lar., äwdä b(arqda) [ada tuda
 マタ 可トスベシ。 家ニ (財ニ) [危 害
- 2) bolmaqai] äwbarq ašīlqay asīr [tusu bolqay]
 無カルベク] 家財 増スベシ 利 [益ヲ 得ベシ]
- 3) (tn)gri tngri(si) burxan b(u).....
 佛 コノ
- 4) i bäl(gülüg) yrliqqaq(alī).....taqī.....
 明ヲカニ 宣ヘルベク ナホ
- 5)birti., inčä (ti)p yrliqadī., ämg(änip).....
 與ヘタリ。カク 云ヒ給ヘリ。 苦シ(ミテ)
- 6) toqurmiş] (kü)ni ärtingü ädgü ölüp (ta)šqarur ö(di)
 生レシ] 日 甚ダ 良ク死シテ 出ス 時
 [taqī
 [亦
- 7) ädgü] torsar ölsär ymä bu no(m) bítigig [oqīsar
 善シ] 生トモ 死ストモ マタ コノ 經ヲ [讀マバ

8) ai kün] ädgü ärtingü yruq yil y(ili) [ärtingü ädgü]
月 日] 良ク 甚ダ 明カルシ 年 年 [甚ダ 善ク

- VI 1) (artu)r (yawa)šbitig' oqip iş (išläsar) [yitinč
(極メテ) 良シ 經(ヲ) 讀ミ 勵マバ [第七
2) (o)q(u)š-inkä tägi qutatqay (a)šilq(ay) t . . .
(姓) ニ マデ 幸アルベシ 利アルベシ (ト云…)
3) ……(o)l ödün yiti tümän yiti ming
ソノ 時 七 萬 七 千
4) [budun-lar] (t)ngri burzan y(rliq)-in äsidip ärt(ingü)
〔ノ人々〕 佛(ノ) 宣示ヲ 聞キテ 甚ダ
5) . . . ti-lar (k)öni kirtü (törü) kä k(irdi-lär)
セリ 眞 正ノ (法) ニ (入レリ)
6) (burzan)-ning nom · rtn · -inkä [täginti-lär,, sizigsizin]
(佛)ノ 法(寶?) ニ [達シ 疑惑無ク]
7) (tüz) kärinčsiz burzan qu(tinqa) [köngül turʔurdī-lar]
(マニ) 比類ナキ 佛 福(ニ) [心ヲ生セリ]
8) (ol) (ö)dün tidīrsiz bodistw tng(ri) (burzan)……………
(ソノ) 時 無礙 菩薩 佛〔ニ〕

- VII 1) ……⁽¹⁰⁾baqir böšük bolur-lar,, ti . . .……………
親 戚 トナル
2) ……aşnu-ča ädgü kün [körür-lär ädgü öd
前ニ 良キ 日 [ヲ見 善キ 時
3) talulap] timin q(awi)šur-lar,,……………
擇ビテ] 直チニ (婚ヲ) 結ブ
4) ……tä . . . ……yänä az(-untaqi) ular [sabar
サラニ コノ世ニ於テ 相因ル [相因ル
5) oqurinta ädgün] ögrünčün bā(g) yutuz bolup bai⁽¹¹⁾
時ニ當リテ 仕合セ善ク] 喜ビテ 夫 婦 トナリ 富
b[arim-
〔裕ノ
6) -lir'in] ädgü-lugin Zarīqinča qawiširli [az
人] 幸ナル人(トシテ) 老ニ到ル迄(生ヲ) 借ニスルモノ [少ク
7) inčip] (yo)q čiqay bolup ödsüz (qo)lu-suz [adri-
カクテ] 貧 窮 トナリ 不時ニ 不時ニ [別
8) -li]p (ba)rīr-lī ölügli bu iki [türlüg
レ] 去ルモノ 死スルモノ コノ 兩 [様ノ

- VIII 1) ⁽¹³⁾ tīnlīr-lar] trs tātrū törü-si in(čip) [ädgü
人々ハ] 邪 僻ノ 法ヲ シカモ [善
2) yavlaq utli] si nä üçün atr̄ ad(r)r̄ ärki t(ngri)m
惡ノ 報ヒ] 何 故ニ 種 々 アルモノ(カ) 世尊ヨ
3)[tngri] i burxan inčä tip yrliqadī,, töz-ün [oqlum]
佛 カク 云ヒ 給ヘリ。 善 [男子ヨ]
4)[siz].....(i)nčä oqung,, (bu) yirtinčü-tä tngri.....
...[汝]... カク 聞ケ。(コノ) 世ニ於テ 天
5)⁽¹⁴⁾ (ai) tngri qararı(r) (ot) yru7.....
。(月) 天(ハ) 陰(ナリ) 火(ハ) 陽(ナリ)
6)(är) yru7 (ti)tir,, tiš(i).....
男(ハ) 陽 ナリ。 女(ハ)
7)iki-tin qawasī(p) [qamar tīnlir̄
兩(者)ヨリ 相合シテ [一切 氣息アルモノ
8) tīnsiz] torar b(äl)gürär,, kü⁽¹⁵⁾n.....
氣息ナキモノ] 生マル 現ハル。 日

- IX 1)(qa)wīsip t..maq tīnlr̄ o[qli toqar kiši yalngur].....
相合シテ 人 [子 生レ 人ト
2) (bo)lur,, bu alru yirti(nčü)-d(ägi) [kántün törütmiş
ナル コレ 皆 世ニアルモノノ間ニ [自然ニ(自身ニ)生レシ
törü]
法]
3) (ti)tir,, töz-ün o(q)lum [bilgsiz tīnlīr-lar bilmädin
ナリ。 善 男子ヨ [愚 人等 無知
4) uqma] din (körümčē) yult(uz-čē) trs t(ätürü) [törüčigä
無悟]ヨリ (予言)者 占星者 邪 僻ノ [師ニ
5) bilig ayi] tip öküš (tür)lüg törü-süz ts(uylur)
謀リ(知フ間)]ヒ 諸 種ノ 無法 有罪ノ
6) ayir̄ qilīnčē]lir̄ iş iśläyür-lär,, tīnlr̄-lar-ir̄ [ölürüp
惡業ヲ 行フ。 生アルモノヲ [殺シテ
7) aš] (i)čgü qilip tūngür bösük (za)qadaš [barir̄ bisük alqu
⁽¹³⁾ 食] 飲ヲ ナシ 親 戚 兄弟 [? 悉ク
8) tirilür uluq] törü tuqu itär,, öküš (t)suy irinčü
集リ 大] 儀 式(ヲ) 行フ。 諸 罪 アサマシキ

- X 1) qılurlar] ol' ayar qılınč kücintä ät'öz qotsar
爲ス〕コノ 惡シキ 行ヒ ノカデ 自身 死セバ
- 2) [üç yavlaq] yol qa bärür-lär,, ant(a) kin ul(atı)
〔三惡〕 道 ニ (入ル)。 ソノ 後 マタ
- 3) [kişi] (ät'ö)z-in bolurli tınır lar antaq ol qiti [bu
〔人身ヲ〕 得ル 人 タチハ 恰カモ (此ノ如シ)〔此ノ
- 4) tıngır üzäk]i tupraq-ča,, (üç ywlaq yol ta t[üşügli
爪 上ニ於ル〕 土ノ如キ(モノ) 三 - 惡 道 ニ 〔墮ツルモノハ
- 5)(tınır) lar a(ntaq) ol qalti [bu yir-]tägi [(tu)brı (?)
モノハ 恰カモ (此ノ如シ)〔此ノ地ニ於ケル〕〔土ノ
- täg,,
如シ
- 6) xalti](ol) kişi ä(t'ö)z-in bol(uqli) [tınıq-lar-da
此ノ如キ〕 人 (身)ヲ 得(タル)〔人々ニ於テモ
- kirtkünč
信
- 7) köngülüg] tınır-lar anča ol (qalti) [tınagrı (tingrarı)
心アル〕 人(ハ) 恰カモ 〔 爪
- üzäk]
上ニ於ル
- 8) tabraqça] yänä kirtkünč köngül-i [yor tınıq-lar]
土ノ如シ〕 サラニ 信 心 〔無キ 人々 ハ〕

- XI 1) maz-un,, xız-ır taşqa(rmıš) [künta bu]
…ナカレ。 娘ヲ 出ス 〔日ニ 此ノ〕
- 2)bitigig üç xata [oqızun qızlı küdägügä]
經ヲ 三 タビ 〔讀メ 娘(及ビ) 婿ニ〕
- 3)uluır törü toru q.... [bolqai bu ärür ädgü ädgüda
大 儀 式(ヲ)(ナス) 〔ト成ルベシ(此レ…デアル) 善ガ善ニ〕
- 4)ula(r) sabır bolm(iš)• yruq [yaruırır içkärmiši i]
困 緣 トナリ(タルモノ) 明 〔ガ明ヲ 含ミタルモノニシテ〕
- 5)(ä)w(bar)ır kün kün(-in)gä yoqlayor,,.....⁽¹⁹⁾
(家財) 日 日 ニ 高マル。
- 6) -ingä kötrülür,, uluır kiçig zaqadaš [oqlı
ニ 與ル。 大 小 兄弟 〔子

- 7) oqiz] ašilur toʻrmiş-i alqu (ti)tig otq(urar)
女] 増ス ソノ生レタルモノ 皆 聰明 確固
- 8) [bilir] uqar uz ädrämliġ toqar [ögingä
[知り] 悟リ 達人 有能ナル人(トシテ) 生マレ [母
- XII 1) qangingä] (ta)p(a)q saq bolur,, qap-qa qud(adur).....
父ニ] 恭 敬 トナル。スベテニ 幸トナル
- 2) [ödsüz] (ö)lmäz tükäl ülüġlüġ torar anki . . (t).....
[不時ニ] 死ナズ 皆 好運ニ 生マレ 最(後ニ?)
- 3) [burqan yol]-ingä kirür,, burzan qutın bolur,, o(1) [ödüñ
[佛 道]ニ 入ル。 佛 果(福)ヲ得ル。コノ [時
- 4) säkiz ulug küč]üġ ädrämliġ (bod)istw-lar bar
八 大 威] カアル 菩薩等 アリ
ärt(i-lär)
タリ
- 5) [burqan]-ing . . čingä yrl(r).....ulu(r).....
[佛]ノ (宣示) 大
- 6)t(ü)käl-liġ ärip [inčip ärdämlärin ba . . up]
完ク アリ [茲ニ 其ノカヲ以テ]
- 7)bu yirtinčüdäki qama(r) (tün)lr(-lar) [ara yoriyur]
コノ 世ニ於ケル 一切 衆生 [間ニ 往來シ]
- 8)lar-i-ning yruq küčlü(g).....
ノ 輝ケル カアル

註

略號

羽田: 「回鶻文の天地八陽神呪經」「同補遺」(東洋學報五卷一・二號、三號、一九一五)

T. T.: W. Bang, A. von Gabain und G. R. Rachmati. Türkische Turfan-Texte, I~VIII. Berlin, 1921~1956.

U. S. z.: Caferoğlu Ahmet, Uygur Sözlüğü. I~III. İstanbul, 1934~1938.

v. Gabain: A. von Gabain, Altürkische Grammatik mit Bibliographie, Lesestücken und Wörterverzeichnis, auch Neutürkisch. 2. verbesserte Auflage. Leipzig, 1950.

Malov: C. F. Malov, Памтники Дженеропрской Писемности, Тексты и Исследования, Москва-Ленинград, 1951.

(1) *l*は、漢文本(續藏經)にある「平滿成敗開建除定執破危之文」中の一二語に相當するものだが、既に、羽田博士が述べられたように (cf. 羽田、註(38))、漢文には一〇語のものもあるし、同じ一二語でも相異なるものもある。しかし、甲本でも一二語あつてあること故、この第四行には、*bu iki ygrmi*「この一二の文があることとはまず間違いないだろう。但し、ここに僅かに見られる *türmāk*, *turmaq* の兩語とも、甲本にはなく、*turmaq* が、漢文の「執」に應ずる、甲本の *äip* の異譯であることは明かだが、*türmāk* が他本のどの語に應ずるか断定し難い。

(2) 羽田博士は *uzig* と讀み、「優れたるもの」「教師」の義とされたが(羽田、註(39))、*uzik*「文字」と讀むべきだろう。この語は諸文書に少からず用例あり、「漢語」字」に由來するとみられている。cf. U. Sözl. 204 *uzak*.

(3) この語尾 *-qu* は珍らしい用法のようだが、*üçün*, *üzä* など

の後置詞の前の語尾として、僅かなから次の用例がみられる。T. T. III Der grosse Hymnus auf Mami ① 一四二行 (THID 260, 裏) ② 02/7u üzä 「自由ニスルタメ」 九六行 (THID 259, 表) 260 表) の köngu ücin 「見ルタメ」がこれと同じ用法だろう。

(4) 羽田博士は、甲本の ar/an (212) を「後ロニ(ニ)」と譯して疑問とされたが、von Gabain 教授の“schliesslich”と譯されたところに従う。cf. v. Gabain, 295.

(5) 羽田博士は yultuzçi とつて「指導者」と譯されたが、yultuz 「星」の派生語として、現在多くの專攻者が譯すところに従い、「占星者」の方がこの文意にも適するであろう。cf. U. Sözl. 237, yultuzçi; Muncem. v. Gabain, 356, yultuzçi; Sterndeuter. Malov, 390 juduzçy; acroporor, anezjovet 従つて körimçi も「單なる」謙者」よりは「予言者」の意味に解すべきだろう。

(6) この (6), (7), (8) の三行は甲本の 218 末 ~ 222 始までの約四行に相應するはずだが、本文中に述べたように、約二行の破損を考慮すると、少くとも前半、文章が異つていたらしい。漢字本(續藏經)の「如此人皆返天時逆地理。背月日之光明。沒闇室。違正道之廣路。恒尋邪徑。」に相當する部分である。

(7) 漢文本に「而不中天」とあり、甲本には對應する語句が無かつたが、此の本にはある。注目に値しよう。

(8) 羽田博士は törü toqu に對して、漢文本に據り「殯葬ヲ(?)」として疑問を残されたらしいが、törü も toqu も「儀式」の意味のあることは現在明かになっている。cf. v. Gabain, 343. ここでは確かに葬式を指しているが、XI, 3 は「婚禮にこつて törü toyu の語を用いている。」

(9) 文字はきわめて不明確だが、büymü ärtini ~ rtini の語があるようにある。それならは burçan-nin nom ärtin-inkä……「佛ノ法寶ニ……」となり、甲本の burçan-ning üüsingä täginiki-tär 「佛ノ分ニ違シ」及び、漢文本の「得佛法分」に應ずる。nom ärtini はよく用いられる語である。

(10) 甲本には baqar bisük とあり、羽田博士は語義不明とされたが(羽田、註(46) (48))、現在ではよく知られている。baqar は多くは ybar, bayar と書かれ、「肝臓」「腹中のもの」の意味から「心」とも「縁者」の意に用いられる。bösiük は後出の tüngür と同じく姻戚のこと。cf. U. Sözl. 22, baq'ar, 37, bösiük. なお、譯註(16)。

(11) bäs と yutuz も甲本に同一語が用いられ、羽田博士が語義を正すに苦心されたものだったが、その譯語「夫婦」が完全に正しいこと、現在は明かである。cf. v. Gabain, 302, 357.

(12) cügnü の次に、甲本では öküü 「多シ」の語あり、漢文本の「死別者多」に對應する文に相異なるから、恐く書寫の誤りとみられる。もし、そうであるなら、甲・丁兩本共通の誤りということを注目せねばなるまい。

(13) 甲本と照合すると、この前後は殆ど一致している。従つて in… は incip と推定されるが、そのはあい、羽田博士が Förüsi の次に動詞「信す」の如き語が脱せるものなるべし(註(52))と述べられたことは、ここにもそのまゝ該當する。甲本についてみれば、その考察は完全に正しいので、この兩本の一致が實在するならば、前項の譯註(12)と並び注目しておきたい。

(14) VIII 4 ~ 7 は、漢文本の「夫天陽地陰月陰日陽水陰火陽女陰

男陽」に對應した甲本の 258~260 に相應している。それは次の通りである。 *bu yirtinčudä tngri yaruj yir xarary, kün tngri yruy titir ai i tngri garary, ot yruy titir, suv garary, är yarug titir, tiši xarary.* 今、損耗部分を考慮しても、丁本では「甲本の右イタリックの部分が脱落していることは疑ない。VIII.) 末の *tngri* の傍に、後からの添字が薄く *kün* とみえているが、恐くは書寫の際に續出する *tngri* の字のため錯誤を來たしたものだらう。

(15) この *bälgüür* と *kin* との間には、漢文本「一切草木生焉」甲本 261 の *gamay i igac togar* が缺けている。しかし、これは、前項、譯註(14)とは異り、省筆の可能性が多い。この後、IX.) までの間も、甲本では殆ど四行近い (262~265) 記述があり、必ず丁本では省略されているに相異なる。

(16) *Cateroŋju* 教授の語釋によれば、*tüngür* も *bösük* と全然同様に、姻戚關係のことに用うという。cf. U. Söz., 200, *tüngür*.

(17) 羽田博士は、その註(7)で、當時の W. Radloff の解釋を批判し、*xagadas* 「兄弟」を主張されたが、現在は、いずれも「兄弟」の意味を持つ *qa* と *qadaš* との兩語の存在は衆知となつてゐる。但し、兩語を結合した書き方は多くないが、甲本など 270, 283 では分離され、44, 82 その他では結合され、兩者が混在している。語史的考察は別の機會を期したい。

(18) 文字通りなら *bär-* は *bir-* に通じて「與へル、返濟スル」の意味となるが、このはあい *kär-* 「入ル」の誤寫であろう。甲本には *kirir* である。

(19) この *yodlayor*, 以降、次行の …*ingä kötrülür* までは、

やはり何かが「日々(月々、年々、時々?)に高まる」であり、漢文本に「門高人貴子孫興盛」とあるのと照合すれば、その「人貴」に相應する文があつたに相異なる。一方、甲本では(283) *ävbari küningä as lur ködrülür* 「家財日々ニ増シ高マリ」だけで、この部分は、丁本の方が記述が多い。譯註(7)に述べたところと共に注目しておく必要がある。

(20) 後半の文字が不明確だが、甲本には、*ang kinintä* とあるところ。 *ang kinintä* を縮めた *ankinintä* という書き方があるやうに見える。

附、西北科學考查團將來文書

前にもふれたように、中國西北科學考查團も、此のウイグル佛教經典の斷片を入手したことが、その調査團員だつた黃文弼氏の報告書により知ることができる。黃文弼著『吐魯番考古記』(考古學特刊第三號、中國科學院、一九五四)の附録として、同書の圖版の部、一二一・一二三頁、圖版一〇六・一〇七に掲載された「圖96、附録、古雜文印本1・2」がそれである。本文六四頁にある簡単な説明によれば、それは、木刻畫像を題首に持つ版本で、入手事情は明記されていないが、後世貼合されたものをトゥルファン方面でも入手されたものだらう。二片に分れていたらしく、兩者が同一のもの的一部であることは疑なく、一方の畫像のあるもの1には、

畫に續き五行のウイルク文があり、他方のもの2には、五行ずつのウイルク文四面がある。要するに、一面五行ずつの折疊み式のものである。この本は、既に、馮家昇氏が「佛説八神陽呪經」とされた由であるが、正に、一讀してみると、大谷探險隊將來の、羽田博士の「佛説天地八陽神呪經」と同一のものであり、1の五行は卷首に當り、2の四面二〇行は、大谷甲本の第二三二〜一四〇行に當る部分である。

今、この本について詳論するつもりはない。ただ、二・三氣のつく點を指摘し、ローマ字轉寫による本文と、試譯とを掲げ、參考に供したいと思う。第一に、この卷首に記された經名は、大谷甲本にみられるそれ (*tngri burqan yrliqamis yirli tngri-li säkiz yükmäk yarur bükülik arviš nom bitsig*) とは若干異り、羽田博士の紹介された (羽田、「補遺A」東洋學報五卷三號) 「露西亞學士院所藏八陽神呪經卷首」と完全に一致していることが注目される。經名のこの二通りの書き方は、書かれてある場所は異なるが、同一本中、敢て別の書き方がされる可能性よりは、やはり、叙述系統の相異とみるべきであろう。他の四面二〇行の叙述も、甲本とは異なる表現が用いられている。たとえば、2の5)、13)にある *ötrü ol oq ün (vid yipar) yana* という部分が、甲本では *ol tınlır* と書かれているなど最も著しい。ところが、この

部分などをこれと同じ表現を用いているものに、Radloff氏が曾て發表されたウルムチ領事 Krotkov がトゥルファンで入手したというもの (cf. W. Radloff, Kuans-sim Pusar, Bibliotheca Buddhica 14. Petersburg, 1911, Beilage II) などがあり、諸本の比較研究がやはり期待されるのである。又、内容は知られていないが、羽田博士がふれられた (東洋學報五卷三號、通卷四〇一・四〇二頁)、當時ベルリンにある繪畫を挿入せる版本というものなど、あるいはこれと同一板かもしれぬ。尙、前にあげた「露西亞學士院」本とは、對照し得る範圍では完全に一致しているが、それは寫本であり、全然別本である。

以下に本文と譯文とを紹介するが、2の二〇行は、テュルク語特有の表現が多く、この試譯では逐語譯に留めたので、日本文としては理解し難いかもしれぬ。これは、漢文本で (聲) 即是空。空即是聲。即是妙音聲如來。鼻常齶種種無盡香。香即是空。空即是香。即是香積如來。舌常了種種無盡味。味即是空。空即是味。即是……………」とあるところに當る。轉寫方式その他は丁本についてと同様であるが、ただ、これには *q* と *n* とを區別すべき二ヶの傍點は見えぬので、この三音については原本は同一文字である。句讀點は、以外に……とも用いられている。そのまま記した。

- 1) namo bud,, namo darm,, namo sang ∴
 南無 佛 南無 法 南無 僧
- 2) (tn) gri tngrişi burxan yrliqamış tngri-li
 (天 中ノ天) 佛 説キタル 天
- 3) yir-li-tñ säkiz türlük-in yarumış
 地 ヨリ 八 種ニ 輝キタル
- 4) yaltirmış iduq drni tana yip atlr sudur
 輝キタル 神 呪 ? 名付ケラレタル 經
- 5) nom bitig bir tägz-inç,, ∴
 典 一 卷

東
洋
學
報

- 2) 1) (t)itir,, yoq quruş ymä ol oq ärür,, ol kim
 ト云ハル(ハ) 無 空 マタ 是ナン ナリ コノ
- 2) yoq quruş titir,, ün ymä ol oq ärür,,
 無 空 ト云ハル(ハ) 聲 マタ 是ナン ナリ
- 3) (ü)n-tä öngi yoq quruş boltuqmaz,, yoq quruş
 聲 ヨリ ホカニ 無 空 ナク 無 空
- 4) -ta öngi ymä ün boltuqmaz,, inçä
 ヨリ ホカニ マタ 聲 ナシ カクノ如ク
- 5) ötkürü usar,, ötrü ol oq ün yana
 悟リ 能ハバ ソレニテ コレナル 聲 更ニ
- 6) soqançir ün-lüg atlr burxan titir : yana
 妙ナル 聲アル(トノ)名ノ 佛 ト云ハル 更ニ
- 7) burun-i turqaru adruq adruq alqinçsiz yid
 鼻 ハ 常ニ 種 種 無盡ノ 匂
- 8) yipar yidlayor,, ol kim yid yipar titir,,
 香(ヲ) 嗅グ コノ 匂 香 ト云ハル(ハ)
- 9) yoq quruş ymä ol oq ärür,, ol kim yoq quruş
 無 空 マタ 是ナン ナリ コノ 無 空
- 10) titir,, yid yipar ymä ol oq ärür,, yid
 ト云ハル(ハ) 匂 香 マタ 是ナン ナリ 匂
- 11) yipar-ta öngi yoq quruş boltuqmaz,, yoq quruş
 香 ヨリ ホカニ 無 空 ナク 無 空
- 12) -ta öngi ymä yid yipar boltuqmaz,, inçä
 ヨリ ホカニ マタ 匂 香 ナシ カクノ如ク
- 13) ötkürü usar,, ötrü ol oq yid yipar
 悟リ 能ハバ ソレニテ コレナル 匂 香
- 14) yana yipar yükmäk atlr burxan titir :
 更ニ 香 積 (トノ)名ノ 佛 ト云ハル

第四拾卷
四四四

- 15) ymä til-in turqaru adruq adruq alqinčsüz
又 舌ハ 常ニ 種 種 無盡ノ
- 16) tatiř-liř tatiř tatar,, ol kim tatiř tip titir
好キ 味(ヲ) 味フ コレ 味 ト ト云ハル(ハ)
- 17) yoq quruř ymä ol oq ärür,, ol kim yoq quruř
無 空 マタ 是 ナン ナリ コノ 無 空
- 18) titir,, tatiř ymä ol oq ärür,, tatiř-ta
ト云ハル(ハ) 味 マタ 是 ナン ナリ 味 ヨリ
- 19) (ö)ngi yoq quruř boltuqmaz,, yoq quruř-ta öngi
ホカニ 無 空 ナク 無 空 ヨリ ホカニ
- 20) ymä tatiř boltuqmaz,, inča ötkürü usar,,
マタ 味 ナシ カクノ如ク 悟リ 能ハバ

(本稿は、龍谷大學石濱紙太郎氏を代表とする綜合研究「中央アジア文化の綜合的研究」——昭和32年度文部省科學研究費による——の研究報告の一部)

(静岡大學助教授)

東洋文庫新刊書

松本雅明著

詩經諸篇の成立に

關する研究

(東洋文庫
論叢四一)

A五版 九五二頁 索引二四頁
英文要旨二〇頁 二千圓

内容目次

- 一、詩經修辭における賦比興の分類
二、興の研究 上
三、興の研究 下
四、詩篇における新古の層の辨別

- 五、詩篇における思惟展開の徑路
六、年代推定の資料
七、古代祭禮の復原
八、詩經に見える古代の祭禮

岩井大慧著

日支佛教史論攷

(東洋文庫
論叢三九)

A五版 五四四頁 索引三二頁
英文要旨三三頁 圖版八葉 千五百圓

内容目次

第一部 日支交渉篇

- 一、聖武天皇宸翰雜集に見えたる隋大業主淨土詩について
二、廣法事讚を通して再び聖武天皇宸翰淨土詩を論ず
三、善導傳の一考察
四、「淨土寶珠集」の撰者について

第二部 元代篇

- 五、元代の佛僧と成女式と
六、元史に見えたる「監即兀該」について
七、元初に於ける帝室と禪僧との關係について